

別記

(片がすく、膠馬刷)

私運賊三百名、名々の生命は一人の村松時計店の為の
に蹂躪されんや。つ、何れ、吾々は正當物に、と隠蔽
なる手段で生活の保証を店主に望む。だが店主は
一矢の報復を以て大猫を追ひ出す。稀に吾々を互場
のら追出さうとす。

吾々は此の非道に對して能く追戦は亦はならぬ。正
義の爲めに目的を貫徹せねばならぬ。
だが私達の軍用金は全く盡す。多量な弾丸は盡す。背
後よりハ軌軌と迫りつく。あゝ
切二正一、が為め虚けりや。正私運に御同族を
願ひ何分の御援助を乞ふ。

大正三年八月二十日